

# 高取町

～10年先、20年先を見据えたまちづくりを進める～

奈良県の中部に位置する高市郡高取町は、城下町、薬の町として広く知られています。しかしながら基幹産業である製薬業の衰退に加え少子高齢化の問題等によって、町を取り巻く環境は年々厳しくなっています。そういった中、同町は10年先、20年先を見据えたまちづくりを進め、地域資源を生かした各種取組みに力を入れています。以下に町の主な取組みについて紹介します。

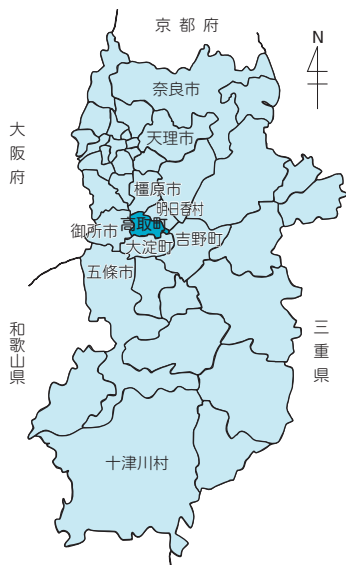
## I 概要

### 1. 地理

奈良県中部に位置する高市郡高取町は、人口7,195人、世帯数2,396世帯、25.79km<sup>2</sup>の町である（総務省「国勢調査 人口等基本集計」（平成27年））。明治4年、旧高取藩の廃藩によって高取県を設置したが、のち大阪府に編入となり、明治24年、行政変更によって再び奈良県に編入、高取町となった。昭和29年、旧高取町と船倉村、越智岡村が合併、現在の高取町が発足した。

高取町は城下町、薬の町として知られるほか、町南部には「壺坂靈験記」の舞台となった壺阪寺や、日本三大山城の一つ高取城跡がある。城へ続く土佐街道には旧高取藩武家屋敷や町家残り、静かなたたずまいの中に城下町の面影を今に伝えている。また、隣接する明日香村と並んで埋蔵文化財も豊富である。

### 高取町の位置図



### 2. 産業構造

高取町の産業構造を、「平成26年経済センサス基礎調査」ベースでの就業者比率の特化係数<sup>(※)</sup>

で見ると、「化学工業」(16.2)、「印刷・同関連業」(7.2)、「宗教」(6.0)、「非鉄金属製造業」(5.9)、「木材・木製品製造業(家具を除く)」(5.1)の順となる。古くから製薬業が盛んだったことから化学工業が町の基幹産業となっている。

高取町の従業者特化係数（上位5位）	
化学工業	16.2
印刷・同関連業	7.2
宗教	6.0
非鉄金属製造業	5.9
木材・木製品製造業（家具を除く）	5.1

出所：地域の産業・雇用創造チャート（総務省）

※特化係数は、地域のある産業がどれだけ特化しているかをみる係数。1以上であれば特化していると考えられ、数値が大きいほど特化度合いが高い。

### 3. 人口構造

人口の推移を5年毎にみると、昭和25年の9,936人をピークとして、昭和60年に一度増加したのを除けば減少が続き、平成27年には7,195人とピーク時に比べ2,741人（△27.6%）減少している（高取町「人口ビジョン」等）。

平成27年時点での年齢3区分別の人口割合は、生産年齢人口（15～64歳）は53.6%、年少人口（0～14歳）は10.2%、高齢者人口（65歳以上）は36.2%となっており、県平均に比べ高齢人口の割合が高い。高齢化率（65歳以上人口割合）は17.7%（平成2年）から36.2%（平成27年）へ年々上昇しており、将来に向けても高齢化が進むと予測されている。

## II 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

### 1. 施策展開の考え方

同町では、人口減少と少子高齢化対策を最重要

課題と捉えており、まずは自然増に繋がるような施策を中心に実施。同町の未来を担う子育て世代が暮らしやすく、現在居住している人、これから同町に居住する人の全ての人が住み続けたいと感じられるまちを目ざし、各種福祉施策や子育て支援、まちの基盤づくり施策を重点的に実施する。さらには、将来的な移住促進を目ざして交流の促進を図るとともに、産業活性化のための施策を戦略的に実施する。

## 2. まちの将来像

住民への意識調査では、今後重点的に実施すべき施策として、「保健・福祉」が第一にあげられており、同町は福祉に重点をおいた施策の実施を基本とする。また、全国に先んじて人口減少、少子高齢化が進行する同町は、福祉施策の充実とともに、町の魅力を高め、住民が生き活きとした暮らしを営むこと、町全体が元気を取り戻すことが大切と考えている。

一方、地方分権が進展する中、多様化する住民ニーズに対して、町が自らの責任と創意工夫のもとに行政経営を進めていかなければならない。また、予算や人的資源は限られており、住民ニーズをすべて満たしていくことはますます困難な状況になりつつあり、教育や環境問題、地域福祉などの分野への住民の参画、住民・事業者と役場の協働が欠かせなくなる。

そこで、すべての施策を通じて、住民・事業者と役場が協働することで、持続可能なまちづくりに積極的に取り組み、町民一人ひとりが輝くまちづくりを目ざすことが重要とし、実現に向けた4つの目標を掲げている。

- ① 安心して子育てができるまち高取
- ② 心豊かに、人が支え合い暮らせるまち高取
- ③ 訪れたいまち、住みたいまち高取
- ④ 産業振興により活力あるまち高取

## 3. 具体的な取り組み

本稿では、各種施策の中から、現在進行してい

る主な取り組みについて紹介する。

### (1)「安心して子育てができるまち高取」

誰もが安心して子育てと仕事を両立できるよう、また子どもたちにとっても少しでも多く豊かな時間が得られるような環境づくりが必要と考え、たかむち小学校敷地内に「放課後児童クラブ施設」を新たに建設し、平成28年4月にオープンさせた。学童保育はこれまで民間保育園に委託していたが、同施設の完成で児童の対象をこれまでの「小学3年生まで」から「小学6年生まで」に拡大でき、現在約60名の児童が利用している。

また、昭和47年に建築された給食センターは、築45年が経過（耐用年数は34年）していることから、老朽化に伴う様々な問題が発生していた。町は、将来の高取町を背負っていく子どもたちに安心安全な給食を提供するため、同町大字森地内において新しい給食センターを建設中である。新センターは平成29年8月完成・同年9月（2学期）稼働の予定である。



放課後児童クラブ施設（左）と新給食センターの完成イメージ図（下）



### (2)「心豊かに、人が支え合い暮らせるまち高取」

同町では、「保健・福祉」の施策の一つとして特別養護老人ホームの誘致に成功し、同施設は平成28年9月1日にオープンした。これにより、介護サービスの充実や医療と介護の連携拡充が図れ、利用者の満足度が高まることが期待される。また、閉校後未活用であった小学校の跡地を使うことで、土地の有効活用にも繋がっている。

さらには、奈良県との間で締結した「まちづくりに関する連携協定」(\*)に基づくバックアップ

を受け、高度最先端医療施設の誘致も進められており、高齢者福祉のさらなる充実が期待できる。

(※)「まちづくりに関する連携協定」については、後述記載

### (3)「訪れたいまち、住みたいまち高取」

#### ■国道 169 号壺阪山駅前交差点改良と駅前整備

国道 169 号壺阪山駅前交差点は、国道から駅の存在がわかりにくく、また、日常生活における安心・安全の確保、人と車の流れの円滑化の観点からも整備が必要であった。さらには、観光客など町を来訪する人たちに対しての玄関口にふさわしい魅力ある駅前づくりも求められていた。

町は「まちづくりに関する連携協定」に基づき県との連携を深め、交差点の改良と駅前整備の早期完成を目ざしている。



国道169号壺阪山駅前交差点改良と駅前整備の完成イメージ図

#### ■高取城 CG 再現アプリの開発

高取城は、日本三大山城の一つに数えられる日本最大級規模の山城。城の建物は明治時代の廃藩置県で取り壊され、今は石垣を残すのみだが、国見 櫓 跡からの大和平野や葛城山・二上山の眺望が抜群であり、近年、観光客が増加している。2016 年に民間会社が発表した実際に訪れた城のランキングで、全国に 3000 ほどある中で 22 位にランクインした。

しかし、これまで専用のパンフレットがなかったことから町が 2016 年 11 月に作成し、役場や観光案内所等で無料配布している。また、専用の観光アプリ「ええ R 高取町」を開発。AR (拡張現実) 機能を用いることで、同アプリを起動してスマホ等をパンフレット上の城平面図にかざすと

CG (コンピュータグラフィックス) で復元された高取城の天守や櫓が立体的に浮かび上がる。町ではこのアプリを「観光の目玉のひとつにしたい」と意気込んでいる。



高取城のパンフレット (左) とアプリ「ええ R 高取町」(右)

### (4)「産業振興により活力あるまち高取」

#### ■企業の誘致

町は都市部への人口流出が進み労働人口が減少していることへの対策として企業誘致を積極的に推進してきた。その結果、県内製薬会社の工場建設が決定した。今後、町民の働く場の創出や法人住民税等税収の増加が見込まれる。

#### ■「高取産トウキ葉を使った入浴剤」の商品化

高取町では飛鳥時代に「薬狩り」が行われた記録が残っており、製薬業が古くから町の主要産業として位置づけられてきたが、製薬業は昭和 40 年代以降衰退している。農村部では過疎化・高齢化が進展し、耕作放棄地が増加する中、これらの問題を一体的に解消することが必要であった。

そこで、平成 24 年度から県が取り組む「奈良県漢方のメッカ推進プロジェクト」を町の主要施策と位置づけた。平成 26 年度には「高取町漢方推進プロジェクト」を発足させ、地元農家等と連携し薬草栽培に取り組んできた。そして、平成 27 年 12 月、町内で育てた薬草・大和トウキの葉を用いた入浴剤「大和当帰の湯」を新潟の企業と共同で開発するに至った。「大和当帰の湯」は薬袋をイメージしたレトロなパッケージがユニークで、「薬のまちたかとり」の知名度向上に一役買っている。



現在、プロジェクトには21戸の農家（含む農業法人）が参加、栽培面積は約7,500㎡。町では平成28年度からの総合戦略においても、薬草栽培面積の拡大や薬草加工品の第6次産業化を引き続き推進しており、今後も薬草を使った商品開発を推進するほか栽培面積も拡大させ、『薬のまちたかとり』の知名度向上を目指していく。



入浴剤「大和当帰の湯」

### Ⅲ まちづくりに関する連携協定

奈良県と高取町は、持続的発展や活性化を企図したまちづくりに資することを目的に、平成27年7月31日、「まちづくりに関する連携協定」を県内の町村で初めて締結した。これにより、町の事業に対して県から財政支援（町負担額の1/4）や技術支援が得られることから、同町では総合戦略と方向性を合わせながら各種施策が実施されている。今後も「与楽古墳群周辺地区」、「土佐街道周辺及び高取城跡周辺地区」、「健幸の森周辺地区」の町内3地区において、具体的なまちづくりが積極的に展開される。

#### ■歴史と「農」のふれあう癒しのまちづくり（与楽古墳群周辺地区）

与楽古墳群の公園整備を契機に、来訪者の増加と住みやすいまちづくりの推進、高取の自然の恵みである「農」の振興を通じた、心と体の癒しを感じるまちづくりを進める。

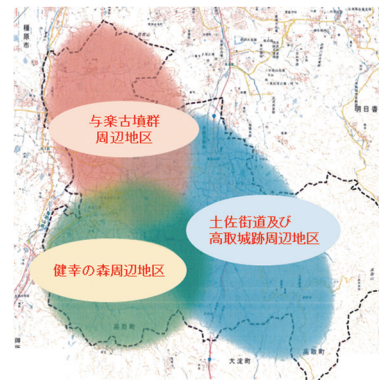
#### ■日本有数の山城とその麓に築かれた城下町を一体的に体感できるまちづくり（土佐街道周辺及び高取城跡周辺地区）

かつての賑わいを取り戻し、まちの活力をさら

に向上させることを目的として、日本有数の山城（高取城）とその麓に築かれた城下町（土佐街道）の風景を一体的に保存・整備・活用し、多くの観光客が訪れるまちづくりを、地域住民の生活に配慮しながら推進する。

#### ■健幸の森を拠点とした健康・医療をテーマとしたまちづくり（健幸の森周辺地区）

京都、大阪、関西国際空港から1時間圏内という地理的特徴を活かし、健幸の森を拠点とした先進医療や漢方の六次産業化、健康・医療に係る機能の誘致・導入、周辺自治体と連携した観光施策を図り、他府県や海外からの医療ツーリズムを展開し、健康と医療を基礎としたまちづくりを推進する。



かつて財政難に陥った苦い経験から、高取町の施策は一時的なまちおこしに終わらせず10年先、20年先の持続的発展を目指したものとしている。さらに、「各家庭の雛人形を観光客に見てもらい、地域交流を図る“町家の雛めぐり”」や「地元産の野菜や生薬の六次産業化を行う農業生産法人」等、住民や私企業が主体となった動きも活発化しており、これらの取組みが行政の取組みと相乗効果を発揮することも期待できよう。高取町には潜在的な魅力を掘り起こし地域の資源を最大限に活用する取組みが求められる中、今後、町内だけでなく町外の人にとっても魅力ある町の形成をどのようにして進めていくか、高取町の動向に注目が集まる。

（丸尾尚史、太田宜志）